

NEW NATIONAL THEATRE, TOKYO 2022/2023 SEASON BALLET 新国立劇場バレエ 2022/2023シーズン

THE NATIONAL BALLET OF JAPAN SWAN LAKE

新国立劇場バレエ団
白鳥の湖

OPERA
PALACE
Tokyo
オペラハウス

NATIONAL
BALLET
OF JAPAN
New National
Theatre, Tokyo

25th ANNIVERSARY

2023年

6/10 (土) 14:00

11 (日) 13:00/18:30

13 (火) 13:30

14 (水) 13:30

15 (木) 13:30

17 (土) 13:00/18:30

18 (日) 14:00

芸術監督：吉田 都

振付：マリウス・プティパ／

レフ・イワノフ／ピーター・ライト

演出：ピーター・ライト／ガリーナ・サムソワ

音楽：ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー

美術・衣裳：フィリップ・プロウズ

照明：ピーター・タイガン

指揮：ポール・マーフィー／富田実里

管弦楽：東京フィルハーモニー交響楽団

Artistic Director: YOSHIDA Miyako

Choreography by Marius PETIPA/Lev IVANOV/Sir Peter WRIGHT

Production by Sir Peter WRIGHT in association with Galina SAMSOVA

Music by Pyotr Ilyich TCHAIKOVSKY

Set and Costume Designer: Philip PROWSE

Lighting Designer: Peter TEIGEN

Conductors: Paul MURPHY/TOMITA Misato

Orchestra: Tokyo Philharmonic Orchestra

'Swan Lake' is produced with the support of Birmingham Royal Ballet.

資料・写真のご請求、ご取材のお問い合わせ

新国立劇場 制作部舞踊 広報担当 清水千奈美

Tel : 03-5352-5735 / Fax : 03-5352-5737 / E-mail : shimizu_c4725@nntt.jac.go.jp

ドラマティックな展開で魅せる、古典の最高傑作

2021/2022 シーズンのオープニングで大好評を得たプロダクションが、待望の再演です。サー・ピーター・ライトによるプロダクションは、英国らしい演劇的要素が盛り込まれた重厚な作品となっており、英国でも長年上演され愛され続けています。各キャラクターの人物造形も明確で、ドラマティックな展開が特徴です。クラシックバレエの王道の魅力に、ドラマ性が加わった『白鳥の湖』をどうぞお楽しみください。

作品について

シェイクスピア劇のような重厚感が加わったクラシック・バレエ永遠の傑作

クラシック・バレエのアイコン的な作品として有名な『白鳥の湖』。王子と姫の恋、それを邪魔する悪役、そして情景を美しく表現するコール・ド・バレエというクラシック・バレエの基本要素が凝縮され、バレエ団としての真価が問われる作品です。白鳥のオデットと黒鳥のオディールを一人のダンサーが踊るのも『白鳥の湖』の大きな特徴で、主役ダンサーの性格の違う二役を踊り分けるテクニックと表現力は注目です。

また、チャイコフスキーの叙情的な音楽は「情景」「四羽の白鳥の踊り」など有名な曲も多く、耳にしたことがある方も多いはず。

そうしたクラシック・バレエの王道の魅力に加えて、ピーター・ライト版では演劇的な要素が加わり、まるでシェイクスピア劇のようなドラマティックさが際立ちます。フィリップ・プロウズによる重厚感のある美術・衣裳も、観客をその世界観へ誘います。



説得力のあるストーリー展開とキャラクター設定



ピーター・ライト版ではプロローグ冒頭、なんと王の葬儀のシーンから物語がスタートします。このように、王子をはじめとするキャラクターたちの置かれた状況や設定が論理的に示され、それぞれの心理描写も緻密に表現されています。

3幕の宮廷の舞踏会、王子の花嫁候補たちの踊りも独特な演出のひとつ。民族舞踊の群舞だけでなく、3人の花嫁候補がヴァリエーションを踊り、各々が国を代表してやってきたというストーリーがしっかりと見える演出となっています。

その他、4幕のそれぞれが意思をもった白鳥たちのドラマティックな群舞や衝撃的なラストなど、ライト版の見どころは枚挙に暇がありません。厚みのあるストーリー展開をどうぞお楽しみください。

ものがたり

先王である父の死後、王子ジークフリードは新たな王として戴冠し、結婚することが求められていた。彼はそれまでの自由を失うことを恐れ、愛してもいない結婚相手を選ぶことのために悩んでいた。ジークフリード 21 歳の誕生日の夜、彼に弓矢のプレゼントを贈るために宮廷の友人たちが集った。友人でもある侍従ベンノがジークフリードの気晴らしのために催した宴の真最中に、王妃である母が現れる。宮廷がまだ喪に服している中での大騒ぎにショックを受けた王妃は、翌日には花嫁を選ばなくてはならないと王子に告げ、意気消沈した彼をその場に残留して立ち去る。ベンノはジークフリードを元気づけようと、友人たちと未来の王位継承を祝って乾杯のダンスを踊る。友人たちが帰っていった後、白鳥の一群が空を渡っていく。ベンノはジークフリードにプレゼントの弓矢を試すよう促し、二人は白鳥たちを追っていく。

湖岸に着いたジークフリード王子は、ベンノに白鳥を探しに行かせる。一人残った王子は、そこに魔術師ロットバルト男爵の邪悪な存在を感じとる。突然一羽の白鳥が舞い降りてくる。そして王子が驚き見つめるなか、美しい乙女に姿を変える。その若い娘こそオデット姫であった。オデットと彼女の仲間たちはロットバルトによって白鳥の姿に変えられ、夜の間だけは人間の姿に戻れるのだ。オデットにかけられた魔法は、まだ恋をしたことをない者が彼女に永遠の愛を誓い、結婚の約束をすることで解くことができるという。ジークフリードはオデットへの永遠に続く真実の愛を誓う。姿を現したロットバルトにジークフリードが矢を向けるが、オデットはそれを遮り、魔術師が死ぬと、魔法の呪いは永久に解けなくなると話す。さらにオデットは、もしジークフリードが愛の誓いを破るようなことがあったら、彼女は永遠に白鳥の姿でいなくてはならないと伝える。やがて夜明けが訪れ、オデットと仲間たちは白鳥の姿に戻り、湖へと帰っていく。

翌日、壮麗なレセプションには、ジークフリード王子の結婚相手の候補として 3 人の王女が招かれていた。3 人の王女たちはそれぞれジークフリードのために踊りを披露するが、彼は心ここにあらずの様子で、花嫁を選ぶことを断ってしまう。ファンファーレが鳴り響き、予定されていなかった客人の到来を告げる。それは使節に身を扮したロットバルトと、魔法でオデットそっくりに姿を変えた、彼の娘オディールだった。

王子は驚くほどオデットに似たこの見知らぬ客人に心奪われ、やがてこの女性が白鳥の姫だと信じ込んでしまう…。



2021 年公演より 撮影：鹿摩隆司

スタッフプロフィール

【振付・演出】 ピーター・ライト (Sir Peter WRIGHT)



リザベス 2 世戴冠賞、93 年ナイト爵授与など。

ロンドン生まれ。複数のバレエ団でダンサーとして活躍。1957 年サドラーズウェルズ・シアター・バレエで最初の振付作品『青いバラ』を創作。59 年サドラーズウェルズ・オペラでバレエ・マスター、英国ロイヤルバレエ学校でバレエ教師を務める。61 年ジョン・クランコ設立のシュツットガルト・バレエ団でバレエ教師及びバレエ・マスターとして活躍。シュツットガルト・バレエ団で初演された初の改訂振付作品『ジゼル』は、後に英国ロイヤルバレエ、バーミンガム・ロイヤルバレエを始め世界の多くのバレエ団で上演。この他にも『眠れる森の美女』『コッペリア』『白鳥の湖』など彼の改訂した古典作品は世界各国のバレエ団でレパートリーとして上演されている。60 年代テレビでのバレエ作品やウェスト・エンドのミュージカルの分野でも成功を収めた。69 年ケネス・マクミランのアソシエイト・ディレクターとして英国ロイヤルバレエに戻り、77 年サドラーズ・ウェルズ・ロイヤル・バレエ (後のバーミンガム・ロイヤルバレエ) の芸術監督に就任、95 年芸術監督退任後、名誉芸術監督。バレエ界の数々の要職を歴任。85 年大英帝国勲章 (CBE)、90 年エ

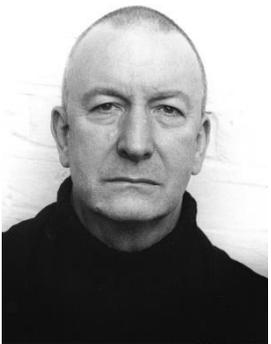
【共同演出】 ガリーナ・サムソワ (Galina SAMSOVA)



めに全幕版『白鳥の湖』

スターリングラード (現ヴォルゴグラード) 生まれ、キエフで活動を始める。西側への移住許可を受け、カナダ国立バレエに入団。プリンシパルとして数多くの作品を踊る。パリ国際舞踊フェスティバルでオルリコフスキー『シンデレラ』を踊り金メダル受賞。その後ロンドン・フェスティバル・バレエに入団し活躍した。古典レパートリーの優れた表現者であり、カーター、ダレル、ハインド、プロコフスキーらの新作に主演。彼女のオデット／オディール、オーロラ姫、キトリは世界中で喝采を受け、またその演劇的な才能は、プロコフスキー『アンナ・カレーニナ』、マクミラン『イザドラ』、ダレル『シェリ』で発揮された。1978 年サドラーズウェルズ・ロイヤルバレエにプリンシパル兼教師として入団、81 年に自身の演出で出演した『パキータ』が好評を得る。ライト版『白鳥の湖』でも共同で演出をおこなった。国外でも演出家としての評判が高まり、『ラ・バヤデル影の王国』『海賊パ・ド・ドゥ』『ワルプルギスの夜』『ジゼル』『眠れる森の美女』等を手がけた。91 年より 97 年までの間、スコティッシュ・バレエの芸術監督を務め、95 年には同団のために

【美術・衣裳】 フィリップ・プロウズ (Philip PROWSE)



英国のスレイド・スクール・オブ・ファイン・アーツで学び、1961 年にデザイナーとしてデビュー。演出家としても活躍し、1970~2003 年までグラスゴウ市民劇場の共同芸術監督を務める。母校のスレイド・スクールで舞台美術を教え、後に同校の教授となった。

【照明】 ピーター・タイガン (Peter TEIGEN)



ノルウェー・オスロ生まれ。英国に渡り、ロンドン・シティ・バレエなどで専属照明デザイナーとして活躍。フリーとなってからは、マシュー・ボーン、マーク・ボールドヴィン、デヴィッド・ビントレー、ピーター・ライトといった今日高く評価されている振付家たちとともに舞台を制作。現在、英国バーミンガム・ロイヤルバレエ照明デザイン・コンサルタントとして海外公演における折衝役も担っている。

【指揮】 ポール・マーフィー (Paul MURPHY) (6月10日、11日 18:30、13日、14日、17日 13:00、18日)



バーミンガム・ロイヤルバレエとそのオーケストラ、ロイヤル・バレエ・シンフォニアの首席指揮者。劇場での公演に加え、コンサートや収録でも共に仕事をしている。1994年以来、ロイヤルオペラハウス管弦楽団と定期的に仕事をしている。その他、ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団、ハレ管弦楽団、ロイヤル・リヴァプール・フィルハーモニー管弦楽団、BBC ナショナル・ウェールズ管弦楽団、ニュー・クイーンズ・ホール管弦楽団、BBC コンサート・オーケストラ、オペラ・ノース管弦楽団、バーミンガム市交響楽団等、英国の優れたオーケストラを多数指揮している。海外では、ベルゲン・フィルハーモニー管弦楽団、ワシントン・ナショナル・オペラ管弦楽団、ソフィア・オペラ管弦楽団、シチリアのテアトロ・マッシモ管弦楽団等と仕事をしている。また、ニューヨーク・シティ・バレエ、バレエ・アム・ライン、ロイヤル・フランダース・バレエ、オランダ国立バレエ、最近ではオーストラリア・バレエのゲスト指揮者を務めている。CD のリリースではハレ管弦楽団(サン・サーンズのピアノと管弦楽曲全曲)、ロイヤル・バレエ・シンフォニア、ニュー・クイーンズ・ホール管弦楽団、ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団との共演がある。97年、英国王立音楽院のアソシエイトに選ばれた。新国立劇場では、『アラジン』『カルミナ・ブラーナ』『ガラントゥリーズ』『火の鳥』『シンフォニー・イン・C』『ペンギン・カフェ』『バゴダの王子』ほかを指揮している。

【指揮】 富田実里 (TOMITA Misato) (6月11日 13:00、15日、17日 18:30)



国立音楽大学器楽学科ピアノ専攻卒業、桐朋学園大学音楽学部にて指揮を学ぶ。堤俊作、湯浅勇治、松沼俊彦に師事。2013年日本バレエ協会『ドン・キホーテ』でバレエ指揮者デビュー。その後、イングリッシュ・ナショナル・バレエ、バーミンガム・ロイヤルバレエの客演指揮者として『ロメオとジュリエット』『くるみ割り人形』『海賊』『コッペリア』『大地の歌』『ラ・シルフィード』『美女と野獣』を指揮したほか、井上バレエ団、NBA バレエ団、東京バレエ団の公演で指揮を務め好評を得る。また、指揮者の活動以外にも様々な分野でピアニストとして活躍の場を広げている。新国立劇場バレエ団では、数々のバレエ公演で副指揮者を務め、現在レジデント・コンダクター。『シンデレラ』『くるみ割り人形』『眠れる森の美女』『アラジン』『ドン・キホーテ』『パキータ』『ペンギン・カフェ』『コッペリア』『白鳥の湖』『ジゼル』を指揮した。

配役・プロフィール

2023年6月	10日(土) 14:00	11日(日) 13:00	11日(日) 18:30	13日(火) 13:30	14日(水) 13:30	15日(木) 13:30
オデット／ オディール	米沢 唯	柴山紗帆	小野絢子	米沢 唯	木村優里	柴山紗帆
ジークフリード 王子	福岡雄大	井澤 駿	奥村康祐	福岡雄大	渡邊峻郁	井澤 駿

2023年6月	17日(土) 13:00	17日(土) 18:30	18日(日) 14:00
オデット／ オディール	木村優里	米沢 唯	小野絢子
ジークフリード 王子	渡邊峻郁	速水涉悟	奥村康祐

【オデット／オディール】

小野絢子 ONO Ayako <プリンシパル>



東京都出身。小林紀子バレエアカデミー、新国立劇場バレエ研修所を経て、2007年に新国立劇場バレエ団に入団。08年『アラジン』の主演に抜擢され、その後もほとんどの作品で主演を踊る。11年プリンシパルに昇格。13年『アラジン』、14年『パゴダの王子』英国初演ではバーミンガム・ロイヤルバレエにゲスト主演した。11年芸術選奨文部科学大臣新人賞および舞踊批評家協会新人賞、14年服部智恵子賞、16年橘秋子賞優秀賞、19年芸術選奨文部科学大臣賞。

木村優里 KIMURA Yuri <プリンシパル>



千葉県出身。泉バレエ塾、橘バレエ学校で学ぶ。新国立劇場バレエ研修所を経て、2015年新国立劇場バレエ団にソリストとして入団。15年『くるみ割り人形』金平糖の精役で主演デビューを果たす。『ドン・キホーテ』『眠れる森の美女』『ジゼル』やF.アシュトン『シンデレラ』、K.マクミラン『ロメオとジュリエット』、R.プティ『コッペリア』、森山開次『竜宮 りゅうぐう』で主演を踊り好評を博した。22年プリンシパルに昇格。17年舞踊批評家協会新人賞、20年中川鋭之助賞を受賞。

米沢 唯 YONEZAWA Yui <プリンシパル>



愛知県出身。塚本洋子バレエスタジオ、サンノゼバレエ団を経て、2010年に新国立劇場バレエ団に入団。11年『パゴダの王子』で初主演を務め、13年プリンシパルに昇格。初演した主な役にはW.イーグリング『眠れる森の美女』オーロラ姫、C.ウィールドン『不思議の国のアリス』新国立劇場初演でのアリス、森山開次『竜宮 りゅうぐう』プリンセス亀の姫などがある。17年芸術選奨文部科学大臣新人賞、18年舞踊批評家協会新人賞、20年芸術選奨文部科学大臣賞、橘秋子優秀賞ほか受賞多数。

柴山紗帆 SHIBAYAMA Saho <ファースト・ソリスト>



東京都出身。バレエスタジオ DUO、ハリッド・コンサーヴァトリー、ピッツバーグ・バレエシアター・スクールで学ぶ。2014年に新国立劇場バレエ団に入団。15年に牧阿佐美『くるみ割り人形』金平糖の精で主演デビューを果たし、『白鳥の湖』『ラ・バヤデール』『ドン・キホーテ』『ライモンダ』『ジゼル』、F.アシュトン『シンデレラ』、森山開次『竜宮 りゅうぐう』の主演のほか、W.イーグリング『眠れる森の美女』フロリナ王女、P.ダレル『ホフマン物語』オリンピアなど主要な役柄を踊っている。21年ファースト・ソリストに昇格。

【ジークフリード王子】

井澤 駿 IZAWA Shun <プリンシパル>



群馬県出身。関田和代、菅居理枝子、田中洋子に師事し、2014年新国立劇場バレエ団に入団。同年F.アシュトン『シンデレラ』で主役デビューを果たし、17年プリンシパルに昇格。『ドン・キホーテ』『白鳥の湖』『ジゼル』などの古典やR.プティ『こうもり』、P.ダレル『ホフマン物語』、K.マクミラン『ロメオとジュリエット』、C.ウィールドン『不思議の国のアリス』の主役、D.ビントレー『アラジン』ランプの精ジーンなどを踊っている。18年中川鋭之助賞、20年舞踊批評家協会新人賞、22年芸術選奨文部科学大臣新人賞。

奥村康祐 OKUMURA Kosuke <プリンシパル>



大阪府出身。母・地主薫に師事し、09年モスクワ国際バレエコンクールで銀賞受賞。翌年文化庁芸術祭新人賞を受賞。12年新国立劇場バレエ団に入団し、16年よりプリンシパル。『白鳥の湖』『眠れる森の美女』『ドン・キホーテ』『ライモンダ』などといった古典作品やD.ビントレー『アラジン』、R.プティ『コッペリア』、M.フォーキン『ペトルーシュカ』主役のほか、C.ウィールドン『不思議の国のアリス』新国立劇場初演でのルイス・キャロルなどを踊っている。10年文化庁芸術祭新人賞、14年舞踊批評家協会新人賞、16年中川鋭之助賞、22年芸術選奨文部科学大臣賞。

福岡雄大 FUKUOKA Yudai <プリンシパル>



大阪府出身。ケイ・バレエスタジオ、チューリッヒ・バレエ団を経て2009年新国立劇場バレエ団に入団。劇場デビューとなる『ドン・キホーテ』で主演し、以降ほとんどの作品で主役を踊る。12年よりプリンシパル。D.ビントレー『アラジン』、『パゴダの王子』英国初演ではバーミンガム・ロイヤル・バレエにゲスト主演した。17、19年ダンス公演中村恩恵『ベートーヴェン・ソナタ』でも高い評価を得る。11年中川鋭之助賞、13年舞踊批評家協会新人賞、18年芸術選奨文部科学大臣新人賞、23年芸術選奨文部科学大臣賞。

渡邊峻郁 WATANABE Takafumi <プリンシパル>



福島県出身。鈴木寿雄のもとでバレエを始める。2009年モナコ・プリンセス・グレース・ダンスアカデミーを首席で卒業し、仏トゥールーズのキャピトルバレエ団に入団。K.ベラルビ『美女と野獣』ほかに主演。16年新国立劇場バレエ団にソリストとして入団し、19年プリンシパル昇格。古典作品の主役やC.ウィールドン『不思議の国のアリス』新国立劇場初演でのジャック、K.マクミラン『ロメオとジュリエット』ロメオ、『マノン』レスコー、D.ビントレー『アラジン』ランプの精ジーン、『Shakespeare THE SONNETS』、D.ドウソン『A Million Kisses to my Skin』などを踊り好評を博している。

速水涉悟 HAYAMI Shogo <ファースト・ソリスト>



京都府出身。ジョン・クランコ・バレエ学校を経て、2015年ヒューストン・バレエに入団。15年ユース・アメリカ・グランプリ NY ファイナル男性シニア部門金賞、審査員特別賞を受賞。18年新国立劇場バレエ団にソリストとして入団。20年『ドン・キホーテ』で全幕主役デビューを果たし、『竜宮 りゅうぐう』『ジゼル』『くるみ割り人形』の主役のほか、『アラジン』ランプの精ジーン、『ロメオとジュリエット』ベンヴォーリオ、C.ウィールドン『不思議の国のアリス』ルイス・キャロルなどを踊る。21年ファースト・ソリストに昇格。『白鳥の湖』は今回が初主演となる。

公演概要

2022/2023 シーズン

新国立劇場バレエ団『白鳥の湖』

Swan Lake

芸術監督	吉田 都
振付	マリウス・プティパ/レフ・イワーノフ/ピーター・ライト
演出	ピーター・ライト
共同演出	ガリーナ・サムソワ
音楽	ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー
美術・衣裳	フィリップ・プロウズ
照明	ピーター・タイガン
指揮	ポール・マーフィー/冨田実里
管弦楽	東京フィルハーモニー交響楽団
出演	新国立劇場バレエ団

【公演日程】

2023年6月10日（土）14:00

2023年6月11日（日）13:00/18:30

2023年6月13日（火）13:30

2023年6月14日（水）13:30

2023年6月15日（木）13:30

2023年6月17日（土）13:00/18:30

2023年6月18日（日）14:00

*ロビー開場は開演 60 分前、客席開場は開演 45 分前です。開演後のご入場は制限させていただきます。

【会場】新国立劇場 オペラパレス（京王新線 新宿駅より 1 駅、初台駅中央口直結）

【予定上演時間】約 3 時間（休憩含む）

【ウェブサイト】<https://www.nntt.jac.go.jp/ballet/swanlake/>

【チケット料金（税込）】

席種	S席	A席	B席	C席	D席	Z席*
料金（税込）	14,300円	12,100円	8,800円	6,600円	4,400円	1,650円

*Z席は舞台のほとんどが見えないお席です。予めご了承ください。

※Z席は、公演当日朝 10:00 から、新国立劇場 Web ボックスオフィスおよびセブン-イレブンの端末操作により全席先着販売いたします。1人1枚です。

※上記の方法での先着販売後、残席がある場合は、公演当日朝 11:00 からボックスオフィス窓口でも販売いたします。

※電話での予約は承れません。

【前売り開始日】

アトレ会員先行販売期間：2023年3月18日（土）10:00～21日（火・祝）

新国メンバーズ先行販売期間：2023年3月19日（日）10:00～21日（火・祝）

一般発売日：2023年3月25日（土）10:00～

2

【チケットのお求め・お問い合わせ】

<ウェブでの予約・購入>

新国立劇場 Web ボックスオフィス <http://pia.jp/nntt/>（PC、携帯共通）

チケットぴあ <http://pia.jp/t/>（PC、携帯共通）【Pコード：511-614】

イープラス <http://eplus.jp/>（PC、携帯共通）

ローソンチケット <http://l-tike.com/>（PC、携帯共通）【Lコード：31603】

<電話での予約・購入>

新国立劇場ボックスオフィス TEL：03-5352-9999（10:00～18:00）

チケットぴあ TEL：0570-02-9999